

講座 都市と国土 3

都市の自然環境

中野尊正編 鹿島研究所出版会

¥ 1,800 p. 338 昭和46年 6月20日発行

いまや、わが国土においては、急激な人口、産業、資本が都市に集中し、その過程で、公害、社会不安、環境悪化などの現代社会の諸矛盾が激化しつつある。

しかも、こうした都市問題は、60年代前後から始まった。高度成長政策にのっとり、地域開発、新産都市建設を経て、いまや新全国統合計画に見られるように、国土全般にわたって、都市化が急速に進められようとしている。

都市をどのように建設していくか、この狭い国土との関連においてどのように問題をとらえていくべきか——これは70年代に課せられた重要問題の一つである。

環境科学の重要な部分を受けもつ、われわれ気象人として、決して、この問題は無縁ではない。無縁でないどころか、新全国統合計画に関してどのように、気象業務の中でかかわり合っていくかが、現在重要問題として気象庁調査課長会議でも論議された。そのような問題意識があがっている気象人にとって、本書「都市と国土」は、タイムリーな課題をなげかけているといえよう。

本講座は「大都市地域」「国土の都市化」という他の2つの巻に続く第3巻「都市の自然環境」の部分である。

都市の土地の基礎（松田磐余、内藤博夫）、都市の水と水質汚濁（高橋裕、安部喜也）、都市気候と大気汚染（浅井辰郎、河村武）、都市域の自然災害（稲見悦治、門村浩）都市の自然保護（宮脇 昭）、都市計画と都市の自然的基盤（中野尊正）という、項目についてそれぞれ分担執筆されている。

都市問題にからんでくる都市の自然環境——つまり都市と自然という二つの矛盾したものをどのように統一していくかという、主要な基盤にたつて各項目全体が関連性をもって書かれているわけではない。しかし、それぞれの分野については、総括的に記述はなされていて、これから、気象学の立場ばかりでなく全般的に都市環境を考えていこうというとき——実は、それが重要であるが——には手頃で、便利な本であるといえよう。

（神山恵三）

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
航空気象月例会	昭和47年 2月25日	日本気象学会	東京航空地方気象台
大気大循環と長期予報月例会	〃 2月25日	日本気象学会	気象庁
レーダー気象月例会	〃 3月10日	日本気象学会	気象庁
第2回都市・建築と気象シンポジウム	〃 3月11日	日本気象学会他3学会	気象庁
春季講演会	〃 3月23日	日本気象学会	気象庁
春 季 大 会	〃 5月16日 ～19日	日本気象学会	気象庁・気象大学校